

3月度月例研修会

「桜井南部の歴史街道を歩く」 中井 弘

3月29日(火)例研日和の快晴で、風に冷たさを感じるものの、日差しは汗ばむ陽気だ。参加者26名はJR桜井駅に集合する。まず川井代表からのご挨拶。次いで藤田会長から今日のコースの説明を受ける。多くの文献を読み込み、市販のガイドブックも足元に及ばない内容の資料を作成された。歩行距離は10km 足らずだが、訪問先は14件もあり充実した一日になりそうだ。

桜井南部は古代には「磐余」と呼ばれ、5世紀



前半から6世紀後半にかけて、履中・清寧・継体・用明天皇がこの地に宮を置いた。聖徳太子が青年

期20年間を過ごしたことで有名な地である。まさに古代史の宝庫といえる地域である。

最初に「若桜神社」を訪れる。履中天皇が冬11月、この地で遊ばれた折に桜の花びらが酒杯に舞い落ちた。「十月桜」であろうか、10kmも西の掖上室山から飛来したという。葛城市にJR掖上駅があり地名が残っている。

「石寸山口神社」を経て聖徳太子が我が国初の国立演劇研究所を作った場所といわれる「土舞台」に登る。期待していた桜はまだ五分咲きだが、ヤマブキ、サンシュユの黄花が満開だ。

少し下った住宅地内にある「艸墓古墳」は7世紀築造の方墳で横穴式石室の中に大きな家形石棺があり、国の史跡に指定されている。

「上之宮遺跡」も住宅地の一角にある。聖徳太子が青年時代を過ごした上宮跡と言われるが、地元の豪族・阿倍氏の館とする説もある。

「メスリ山古墳」はこのあたり最大の前方後円墳で坂東さんの解説を聞く。記紀に記載はないが、王権にかかわる王の墓とされ、大量の武器が発掘されている。前方部には柿の木が多数植えられ私

有地化されているのはどういうことだろうか。

「安倍寺跡」は阿倍倉梯麻呂の建立。金堂や塔の基壇が復元され、史跡公園となっている。花が咲き乱れ、辻本さんの周囲には女性の花が付きまわっている。

「安倍文殊院」は大化の改新の頃建立されたが、松永弾正の兵火で全焼、1666年に再建された。阿倍氏(安倍とも書く)の氏寺で日本三文殊のひとつ、知恵を授けてくれる「安部の文殊さん」と親しまれている。真赤なボケの花が満開で、呆け封じの酒が売られていた。ここで昼食。

「吉備池廃寺」では100m級の塔跡や金堂跡が発掘され、舒明天皇築造の百済大寺ではないかとされる。ここからは二上山が一望できる。吉備池堤防には大津皇子が謀反の罪を着せられ刑死される直前に詠んだ歌碑がある。「ももづたう磐余の池に鳴く鴨を 今日のみ見てや雲隠りなむ」さらに姉の大伯皇女が大津をしのんで詠った「現身の人なる我や明日よりは 二上山を弟背と吾が見む」。古川さんの朗々たる犬養節が春の野に流れる。二上山に眠る大津皇子に届いたであろうか。

「稚櫻神社」に登る。日本書紀に履中天皇は磐余稚櫻宮で即位されたとある。若桜神社と同じく冬桜の花びら伝承があるがいずれが本命だろうか・・・。

「磐余池跡」は長閑な田園の中にある。その所在地に諸説あるが、履中天皇の宮殿・稚櫻宮があり、用明天皇の池辺双槻宮もこの池の傍にあったことから、ここが磐余池とするのが通説となっている。

「御厨子神社」「御厨子観音」も池のほとりにあり、吉備真備が入唐留学し、無事帰国できたことを感謝して創建したとある。

椿が満開の万葉の森を抜けて香久山の東山麓を通り飛鳥に出る。

「大官大寺」は菜畑の中、藤原京跡の東の一角にある。文武天皇が持統の遺志を継いで建立したが完成直前に全焼している。発掘調査で「天皇の寺」に相応しい巨大な規模であったことが判明した。

訪問先いずれも古い伝承があり、興味深い研修であった。参加者の顔に満足感と快い疲労感が現れて取れた。バスは近鉄檀原神宮駅に向かった。